

コラム 緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る

コヌカグサ (*Agrostis gigantea* Roth.)

吉原敬嗣 (紅大貿易株式会社) yoshihara@benidai.co.jp



コヌカグサはイネ科ヌカボ属の多年生草本植物で、日本には1868年に牧草として導入されて以降、帰化植物として全国に広く分布している²⁾。外国原産であることから緑化業界では外来草本類に区分されている。緑化用の植物材料としては種子、茎、ソッドがあるが、日本では主に種子が利用されている。日本での流通名称は英名のレッドトップが一般的だが、種子を販売している各種苗会社が作成する最近のカタログにはコヌカグサの和名も併記されていることが多い。草丈は0.5~1.0 mで葉の長さ10~20 cm、葉幅4~7 mm。条件の良い土壤では根系は約1.2 mまで達する。花序は長さ15~20 cm、小穂は長さ2~2.5 mmで緑色または淡紫色を帯びる。この小穂が出穂時には赤っぽい色となるため、レッドトップと呼ばれるようになった^{3,5)}。C3植物なので寒地型芝草として扱われ、冬時期にも緑量の確保が可能だが、夏時期には衰退しがちな植物として認識されている。耐湿性は比較的高いことから、緑化現場では、湿った場所への吹付緑化施工時の種子配合に入れる事が多くあり、現在も日常的に使用されている。

日本でコヌカグサを使用したい際に、コヌカグサが無かった時、その代替品として使用される事が多いのは、同じヌカボ属の外来草本類で、コロニアルベントグラスの名称で流通するイトコヌカグサ (*Agrostis capillaris* L.) とクリーピングベントグラスの名称で流通するハイコヌカグサ (*Agrostis stolonifera* L.) だ。イトコヌカグサは緑化用の植物としての利用がほとんどで、ハイコヌカグサはゴルフ場の芝地用途としても多く利用されている。コヌカグサも含め3種とも緑化現場で利用されており、一見すると見分けをつけにくく、幼苗段階で見分けることは困難。生育が進んだ個体については、草丈、生育型、葉舌で見分ける事ができ、草丈は大きい順でコヌカグサ、イトコヌカグサ、ハイコヌカグサとなる。コヌカグサが地下茎で増えるのに対し、イトコヌカグサは株状になる叢生型の生育、ハイコヌカグサは匍匐茎で言う様に生育し、匍匐茎が目立つ。葉舌は長い順にコヌカグサが1.5~5.0 mm、ハイコヌカグサが0.6~3.0 mm、イトコヌカグサが0.3~1.2 mmと見分けのポイントになる¹⁾。

日本へ輸入されている数量について2010年から2015年の植物検疫統計を確認したところ、コヌカグサは毎年4月~6月にかけて米国から輸入されていた。年間に輸入される

数量は年ごとに違い、毎年おおよそ500~3,000 kgと一定の数量が輸入されている。統計にはイトコヌカグサとハイコヌカグサを含むヌカボ属という区分もあり、その輸入数量は、年間おおよそ70~100トンとコヌカグサに比べ多い⁴⁾。

コヌカグサはヨーロッパ原産の植物だが、日本で流通している種子は北米産が多く、アメリカには18世紀に芝生利用目的として導入された⁵⁾。アメリカにおいては芝生利用以外にも飼料作物、緑化目的などで利用されているが、いくつかの州では侵略的な外来種と設定されており、最も利用されていた時期と比べて流通量が減っている様である。種子を日本に輸入する際には、植物防疫法により植物検疫に合格する必要があるが、日本の輸入条件は他の国のよりも厳しく、コヌカグサの様な小さな種子の植物は特に輸入が難しい。そのため日本へ輸出する際には、輸出国で土壤や他種子の除去といった日本向けの加工を行う必要があるが、対応できる種苗業者の減少とともに、価格も以前より高い水準となり、日本で流通する数量も少なくなってきた。また、地域性種苗による緑化を重視する動きが出てくるにつれ、外来種の使用が控えられる傾向がみられるが、コヌカグサは環境省が2015年春に公表した生態系被害防止外来種リストに産業管理外来種として掲載されたことから²⁾、さらに使用される機会は減ってくると思われる。なお、イトコヌカグサとハイコヌカグサについては生態系被害防止外来種リストには掲載は無い。

引用文献

- 1) A.J. タージョン (2009) ターフグラスマネジメント 8th エディション, ゴルフダイジェスト社, pp. 94-99.
- 2) 環境省. (更新: 2015年3月26日) “コヌカグサ *Agrostis gigantea*・クロコヌカグサ *A. nigra*”. 環境省ホームページ. https://www.env.go.jp/nature/intro/1_outline/list/files/181.pdf (参照: 2016年1月18日).
- 3) 林弥栄監修 (1989) 山溪ハンディ図鑑1 野に咲く花, 山と溪谷社, pp. 556-557.
- 4) 農林水産省.(更新: 2016年1月15日) “植物防疫所/植物検疫統計”.植物防疫所ホームページ.<http://www.maff.go.jp/pps/j/tokei/> (参照: 2016年1月18日).
- 5) USDA. (2010年4月7日) “Plants Profile for *Agrostis gigantea* (redtop)”.USDA NRCS ホームページ.<http://plants.usda.gov/core/profile?symbol=AGGI2>(参照: 2016年1月18日).